



杉並区立 杉森中学校
学校だより 第343号
平成26年4月30日
平成26年度 第1号

「さらなる発展の予感が・・・」

校長 大橋 亮介

平成26年度、105名の新入生を迎え、全生徒367名（11学級）で始まった。4月8日の入学式は、先輩として立派に成長した2・3年生に迎えられ、平成26年度をスタートし、入学式からたった3週間しかたっていないにもかかわらず、朝読書から落ち着いた雰囲気の中、規則正しい学校生活を送り、上級生に引けを取ることなく杉森生として立派に活動している。今年は、今まで以上に杉森中が発展する予感が・・・。

さて、入学式では、1年生に向けて、「まじめに勉強する」「誰からも愛され、信頼される人になる」「心身ともに健康を維持する」の話をした。この3つは、学校の使命である「生徒に知徳体をバランスよく身に付けさせる」ことに他ならない。

今年度の経営目標は、「自治力をより高める」とした。自治力は、前年度も経営目標とし、その目標達成のためには、生徒の頑張りだけでなく、保護者の方々、地域の方々にも協力してもらうことで、青少年表彰を2件受賞するほどに高まった。今年はさらに定着させることを目標に、杉森中の自由と責任と並ぶ、伝統にしたいと考えている。生徒のみんなが、常に杉森中生であるという自覚と誇りをもって行動してくれるなら、実現できる目標と考えている。

先日の朝礼で、大リーグのイチロー選手が、日米通算出場試合3018試合で、野村克也元選手の記録を上回った話をした。私は、健康やケガをしない体を作るなど、自分自身の健康管理をしっかりとやっているからこそ、試合出場記録を破ったイチロー選手はすごいと思った。しかし、イチロー選手は、「出ているだけでカウントされるものに価値を見いださない」と答えている。おそらく、イチロー選手にとっては、野球選手のプロである限り、試合に出ることは「あたりまえのことを当たり前にしている」と考えているのだろう。これを、授業に当てはめ考えた。生徒が、授業を静かに受けている。その姿を見た私たちは、「授業を受けているね、すごいね、えらいねっ」と言うのだろうか？授業の流れを邪魔することは論外だが、イチロー選手のコメントに当てはめるなら、「授業に出て、静かにしていることが、褒められることではない」のだ。大切なことは、1単位時間の授業に意欲的に参加し、内容を理解し、知識を定着させ学力につなげるという成果または結果を出すことなのである。授業以外も同様である。

今年度の教職員の行動目標は、「チーム杉森中」。教職員が一丸となって生徒指導に取り組む。どうか、今年度も杉森中学校の教育活動にご理解ご協力をお願いいたします。